

水無月 愛南文芸

さわらび短歌会

潰えたる建物に今も残さるる

人らを想ふ花満つる日に

やわらかき本葉の伸びしかばちや苗

鉢替えをする春陽の温かく

脱藩の竜馬の径は樹々深く

春の日差しは奥まで届かず

豌豆の花が動いて飛びたちぬ

驚き見れば白き蝶なり

下枝より散りゆくものか山茶花の

頂に残る淡き紅

言の葉を忘れし友は吾を指し

じっと見つめてふっと笑まいぬ

前田 充

松本マス子

藤井 擴

岩村千代子

水野美代子

河上 明美

在りし日に夫の愛でたる白椿

鉢に育てて娘は手向く

春雨に日に日に緑増すレタス

野菜の価値に収穫待たる

階を一段ごとに下る如

わが夫日々に老いてゆくなり

ホトケノザ一つ吸いてはまた一つ

摘む間も惜しみ春の野辺行く

「お母さん」と呼びたる人の野辺送り

義妹の母上九十二歳

生田八寿子

澤近 正弘

前田 知子

門屋あけみ

前田 昭夫

菊川俳句会

花は葉へ一升瓶の残り酒

何気無き日々に感謝や茄子の花

菜の花を左手で撫でライダーは

ぎざぎざのだれもきづけないレタス

逆光に見えた温もり露の臺

石畳小道に椿の帯を書く

葉桜のさわさわうわさしておりぬ

人参の花結晶はモノトーン

紫陽花に呼ばれ晴れたる地藏堂

中川 一喜

安岡留美子

和田 靖樹

福田 りさ

河野 孝

河野 清美

浅野勇一郎

宇野 迦恋

宇野 天弓

死亡後の手続きについては
町ホームページをご覧ください。



愛南町
ホーム
ページ